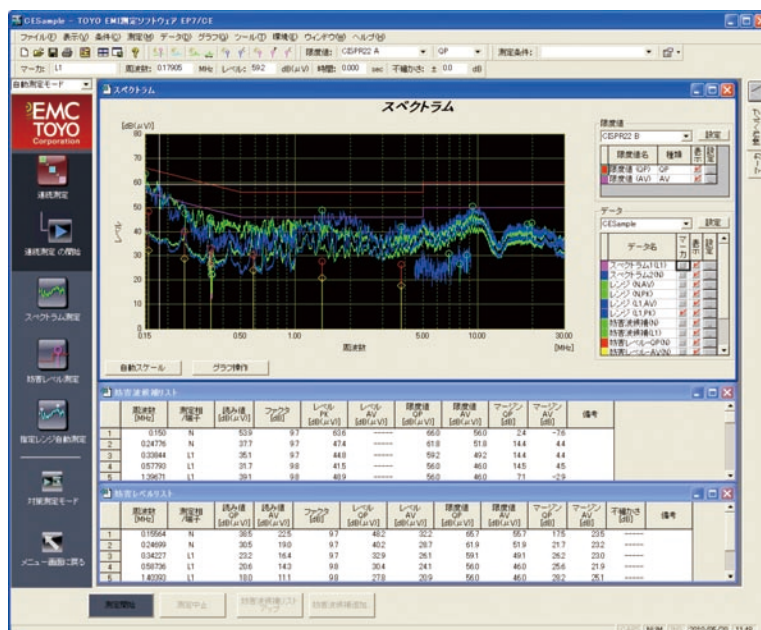


EP7/CE 型 端子雑音評価測定ソフトウェア



基本測定機能

- レンジ測定 (スペクトラムデータの取得)
最終認定試験のプリテスト及び EUT の対策測定を行います。測定条件にしたがってスペクトラムデータの最大値を取得します。この時、擬似電源回路網の相切り替えは自動で行うことができます。
- 候補リスト作成 (QP・AV 測定すべき妨害波の選択)
スペクトラムデータよりピーク値を自動又は手動でピックアップします。自動の場合、限度値からマージンの少ない順に条件で設定された数の妨害波をピックアップしリストを作成します。
- 妨害レベル測定 (QP・AV 測定)
ピックアップした各周波数について QP・AV 測定を行います。

測定の開始

[測定] メニューの [レンジ測定] をクリックするか、測定バーの <レンジ測定> ボタンをクリックすると測定を開始します。疑似電源回路網の測定相を手動で変更する必要がある場合、メッセージを表示します。
測定は、N、L1、L2、L3 の順に測定相を切り替え、測定相毎にレンジ 1 から測定を開始します。

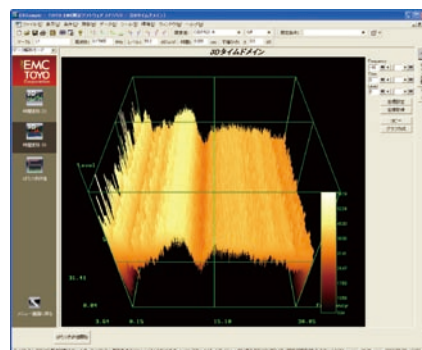
The screenshot shows a dialog box titled '測定レンジ設定' (Measurement Range Setting). It has a table with columns for '番号' (Number), '開始周波数 [MHz]' (Start Frequency [MHz]), '終了周波数 [MHz]' (End Frequency [MHz]), and five '測定' (Measurement) columns. The table is populated with data for 10 different frequency ranges.

番号	開始周波数 [MHz]	終了周波数 [MHz]	測定	測定	測定	測定	測定
1	0.150	30.000	N	L1	L2	L3	プローブ
2			N	L1	L2	L3	プローブ
3			N	L1	L2	L3	プローブ
4			N	L1	L2	L3	プローブ
5			N	L1	L2	L3	プローブ
6			N	L1	L2	L3	プローブ
7			N	L1	L2	L3	プローブ
8			N	L1	L2	L3	プローブ
9			N	L1	L2	L3	プローブ
10			N	L1	L2	L3	プローブ

測定レンジ設定画面

タイムドメイン解析 (2D/3D グラフ)

可能な限り高速で収集されたスペクトラムデータは全て保存され、測定後に 2D (時間/レベル)・3D (周波数/レベル/時間) グラフ表示や数値データにより評価・解析することができます。



3D (周波数/レベル/時間) グラフ

上記の 3D (周波数/レベル/時間) グラフにおいては、従来ソフトウェアでは実現できなかった時間軸での解析が可能です。この 3D グラフには以下の特徴があります。

- グラフ回転機能 (回転方向・回転速度は任意)
- 3 軸それぞれに任意スケールに変更可能 (周波数スパン・時間・レベルの拡大・縮小など)
- 多彩な表示色設定

この機能により、時間の経過によるノイズのレベル変動・振る舞い (変動が急峻・緩やか・間欠的などの判別) が一目で判断でき、ノイズ源の特定に有効です。静電気によるノイズなども QP 検波測定を実施する前に判別することが可能です。